

レビュー研究用フォーム		データ記入欄		
基本情報	対象疾患	皮膚悪性腫瘍		
	タイプ	メラノーマ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Risk of melanoma arising in large congenital melanocytic nevi: A systematic review		
	論文の日本語タイトル	大型先天性色素細胞母斑に生じるメラノーマのリスク：システマティック・レビュー		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)		
	ガイドライン上での目次名称			
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー／メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験による III. 非ランダム化比較試験による IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズによる） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見（I）		
	Pubmed ID	15253185		
	医中誌 ID			
	雑誌名	Plast Reconstr Surg		
	雑誌 ID			
	巻	113		
	号	7		
	ページ	1968-74		
	ISSN ナンバー			
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)		
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
	発行年月	2004 Jun		
	著者情報		氏名	所属機関
		筆頭著者	Watt AJ	University of Michigan School of Medicine and Section of Plastic Surgery, Dept. of Surgery, USA
その他著者 1		Kotsis SV	同上	
その他著者 2		Chung KC	同上	
その他著者 3				
その他著者 4				
その他著者 5				
その他著者 6				
その他著者 7				
その他著者 8				

レビュー研究の6項目	目的	大型先天性母斑におけるメラノーマ発生のリスクをシステマティックレビューにて検討する
	データソース	PRE-MEDLINE と MEDLINE
	研究の選択	1966~2002 年の文献を渉猟。大型母斑の定義として、体表面積の 2% 以上あるいは最大径 20cm 以上の母斑病巣とした。
	データ抽出	2 名の研究者が独立に文献からデータを抽出した。互いのデータを比較して、結果に差異があったら、話し合いによって合意した。
	主な結果	1) 8 文献が検出され、432 症例が解析対象となった。 2) 平均経過観察期間 6.2 年で、12 例 (2.8%) に皮膚のメラノーマが生じた。不明の 2 例を除き、メラノーマは母斑病巣部に生じた。 3) 一般人に比べ、大型先天性母斑の患者がメラノーマを生じる危険性は有意に高く、standardized morbidity ratio は 2599(95%CI: 844-6064)となった。 4) メラノーマを生じた 12 例への事前の処置は、無治療が 50%、部分切除 17%、dermabrasion 8.3%、ケミカルピーリング 8.3%、不明 17%であった。
	結論	大型先天性母斑の患者はメラノーマを発生するリスクが有意に高い。
レビューワーコメント	備考	
	レビューワー氏名	斎田俊明
レビューワーコメント	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 (I) きちんとした解析手法によるデータである。ただし、皮膚以外のメラノーマや neurocutaneous melanocytosis の合併は対象としていない。表の注記から、皮膚のメラノーマ以外に、leptomeningeal melanoma 1 例、その他の皮膚以外のメラノーマ 1 例、neuroblastoma 1 例、neurocutaneous melanocytosis 5 例、原発不明転移での死亡 3 例があったことが分かる。